

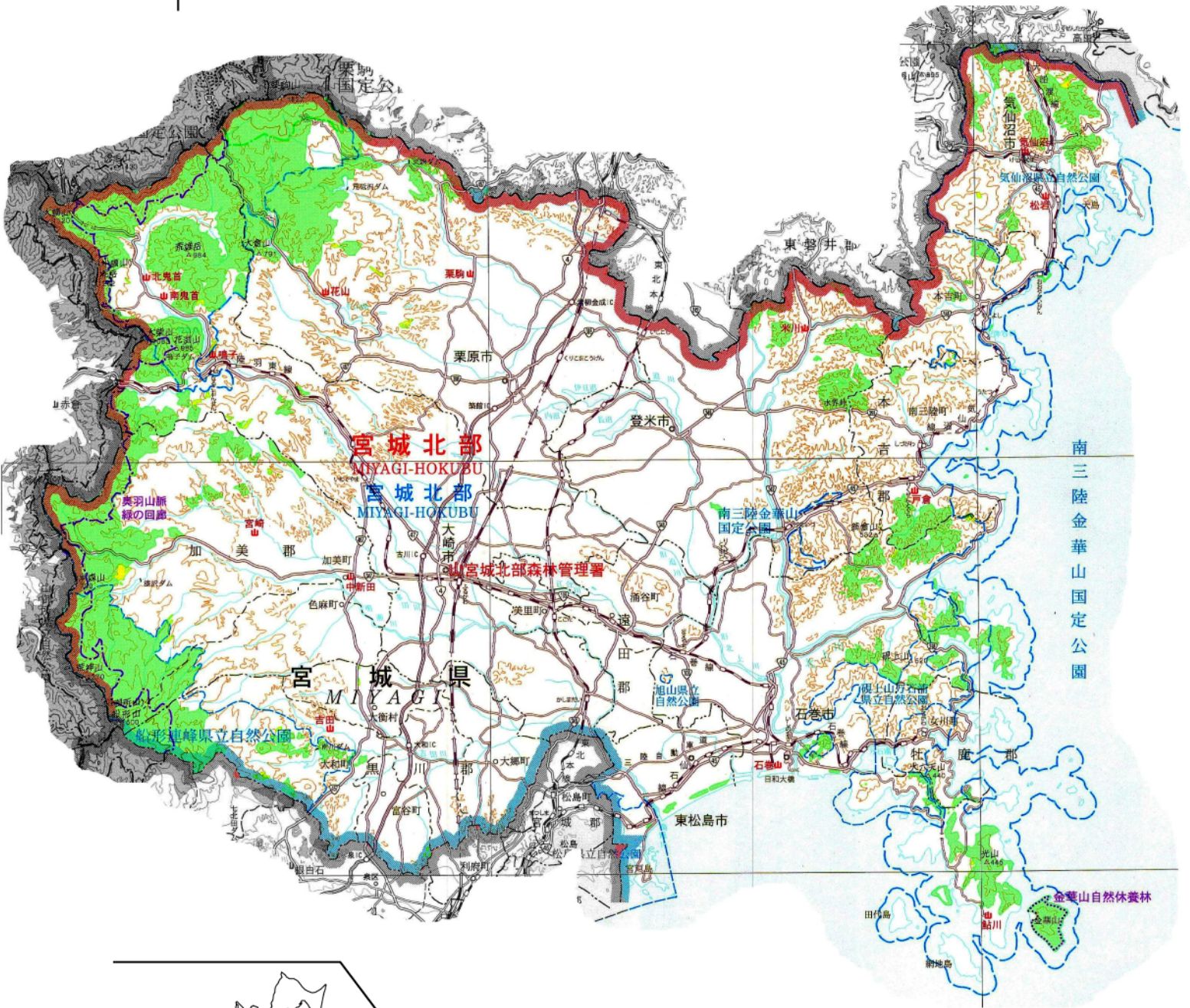
宮城北部国有林の地域別の森林計画書（案）

（宮城北部森林計画区）

計画期間 自 平成26年4月1日
至 平成36年3月31日

東北森林管理局

宮城北部森林計画区の位置図



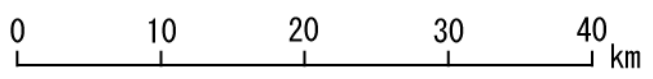
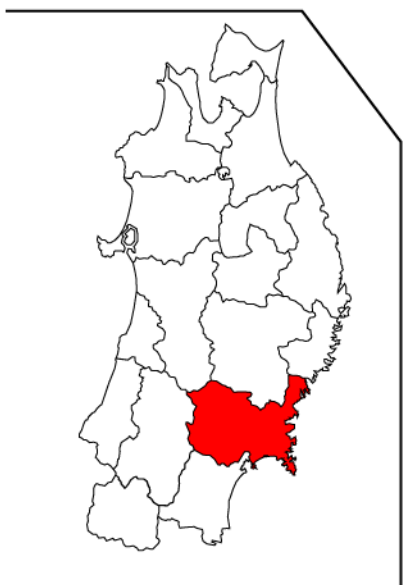
南三陸金華山 国定公園

宮城北部森林管理署

宮城北部
MIYAGI-HOKUBU
宮城北部
MIYAGI-HOKUBU

宮城 県
MIYAGI

	国有林野
	官行造林



目 次

I	計 画 の 大 綱	
第 1	森林計画区の概況 -----	1
1	位置 -----	1
2	自然的背景 -----	1
3	社会経済的背景 -----	2
第 2	前期計画の実行結果の概要及びその評価 -----	4
第 3	計画樹立に当たっての基本的考え方 -----	5
II	計 画 事 項	
第 1	計画の対象とする森林の区域 -----	6
第 2	森林の整備及び保全に関する基本的な事項 -----	7
1	森林の整備及び保全の目標	
	その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項 -----	7
(1)	森林の整備及び保全の目標	
(2)	森林の整備及び保全の基本方針	
(3)	計画期間において到達し、かつ、保持すべき森林資源の状態等	
2	その他必要な事項 -----	11
(1)	溪畔周辺の整備・保全	
第 3	森林の整備に関する事項 -----	12
1	森林の立木竹の伐採に関する事項 -----	12
(1)	立木の伐採（主伐）の標準的な方法	
(2)	立木の標準伐期齢	
2	造林に関する事項 -----	13
(1)	人工造林に関する基本的な事項	
(2)	天然更新に関する基本的な事項	
3	間伐及び保育に関する事項 -----	15
(1)	間伐の標準的な方法	
(2)	保育の標準的な方法	
4	公益的機能別施業森林等の整備に関する事項 -----	16
(1)	公益的機能別施業森林の区域	

(2)	公益的機能別森林における施業の方法	
5	林道等の開設その他林産物の搬出に関する事項	17
(1)	林道（林道専用道を含む。以下同じ。）等の 開設及び改良に関する基本的な考え方	
(2)	効率的な森林施業を推進するための 路網密度の水準及び作業システムの基本的考え方	
(3)	更新を確保するため林産物の搬出方法を 特定する必要がある森林の所在及びその搬出方法	
(4)	その他必要な事項	
6	森林施業の合理化に関する事項	19
(1)	林業に従事する者の養成及び確保に関する方針	
(2)	作業システムの高度化に資する林業機械の導入の促進に関する方針	
(3)	林産物の利用促進のための施設の整備に関する方針	
第4	森林の保全に関する事項	20
1	森林の土地の保全に関する事項	20
(1)	樹根及び表土の保全その他森林の土地の 保全に特に留意すべき森林の地区	
(2)	森林の土地の保全のため林産物の搬出方法を 特定する必要がある森林及びその搬出方法	
(3)	土地の形質の変更に当たって留意すべき事項	
2	保安施設に関する事項	21
(1)	保安林の整備に関する方針	
(2)	保安施設地区に関する方針	
(3)	治山事業に関する方針	
(4)	その他必要な方針	
3	森林の保護等に関する事項	22
(1)	森林病虫害等の被害対策の方針	
(2)	鳥獣による森林被害対策の方針	
(3)	林野火災の予防の方針	
(4)	その他必要な事項	
第5	計画量等	24
1	伐採立木材積	24
2	間伐面積	24
3	人工造林及び天然更新別の造林面積	24
4	林道の開設又は拡張に関する計画	25

5	保安林整備及び治山事業に関する計画 -----	27
	(1) 保安林として管理すべき森林の種類別面積等	
	(2) 保安施設地区として指定することを相当とする土地の所在及び面積等	
	(3) 実施すべき治山事業の数量	
第6	その他必要な事項 -----	29
	保安林その他法令により施業について制限を受けている森林の施業方法 --	29
別表	公益的機能別施業森林の区域及び施業方法 -----	42
(附) 参考資料		
1	森林計画区の概況 -----	46
	(1) 市町村別土地面積及び森林面積	
	(2) 地況（気候）	
	(3) 土地利用の現況	
	(4) 産業別生産額	
	(5) 産業別就業者数	
2	森林の現況 -----	50
	(1) 齢級別森林資源表	
	(2) 制限林普通林別森林資源表	
	(3) 市町村別森林資源表	
	(4) 制限林の種類別面積	
	(5) 樹種別材積表	
	(6) 荒廃地の面積	
	(7) 森林の被害	
3	林業の動向 -----	63
	(1) 森林組合及び生産森林組合の現況	
	(2) 林業事業体等の現況	
	(3) 林業労働力の概況	
	(4) 林業機械化の概況（高性能林業機械）	
4	前期計画の実行状況 -----	67
	(1) 伐採立木材積	
	(2) 人工造林・天然更新別面積	
	(3) 林道の開設又は拡張の数量	
	(4) 保安施設の数量	
5	林地の異動状況（森林計画の対象森林） -----	68
	(1) 森林より森林以外への異動	

(2) 森林以外より森林への異動	
6 森林資源の推移 -----	68
(1) 分期別伐採立木材積等	
(2) 分期別期首資源表	
7 その他 -----	70
(1) 国有林の地域別の森林計画の沿革	
(2) 担当者の役職及び氏名並びに樹立に従事した期間	

I 計画の大綱

第1 森林計画区の概況

1 位置

本森林計画区は、宮城県のおおむね中央部から北部に位置し、北側は岩手県の北上川中流森林計画区、大槌・気仙川森林計画区、西側は秋田県の雄物川森林計画区と山形県の最上村山森林計画区及び南側は宮城南部森林計画区に接し、大崎市などの6市9町1村を包括する区域である。

2 自然的背景

(1) 地勢

本森林計画区は、西端を南北に走る奥羽山脈の山岳地帯、東部の北上山地の丘陵地帯及びこの2つに挟まれた平野部とに大別される。奥羽山脈を含む山岳地帯は、秋田県、山形県の県境に栗駒山(1,627m)、小鐮山(1,262m)、船形山(1,500m)等の標高1,000m以上の山々が連なっている。また、丘陵地帯は北上山地の南端部に位置し、標高600m以下の起伏の緩やかな地形となっている。北上山地の東側はリアス海岸で太平洋に面し、金華山等の島が陸地からあまり離れていない位置に点在している。

これらの地域を流れる主要な河川としては、奥羽山脈に源を發する迫川、江合川が東に流れて北上川に合流し、南下して太平洋に注いでいる。また、奥羽山脈に源を發する鳴瀬川が東に流れて石巻湾に注いでいる。

(2) 地質及び土壌

本森林計画区のうち、奥羽山脈の栗駒山、小鐮山、船形山周辺は第四紀の新期火山地域で花崗閃緑岩や凝灰岩が分布している。また、北上山地は中生代の粘板岩、砂岩、凝灰岩等の堆積岩や花崗岩類が分布している。

奥羽山脈の山岳地帯は褐色森林土が全体の52%を占め、次いでポドゾル土壌15%、黒色土14%、その他19%となっており、おおむね標高700m以上にはポドゾル土壌が分布し、山麓地帯には黒色土が分布している。北上山地の丘陵地帯は褐色森林土60%、黒色土30%、その他10%となっている。褐色森林土は全般的に分布しており、黒色土は斜面上部の緩やかな広い峰筋に分布している。

(3) 気候

本森林計画区は、脊梁をなす奥羽山脈から太平洋に至る広大な範囲にわたっていることから、気候型も地域によって特徴がある。奥羽山脈の山岳地帯は冬季、北西からの季節風を受けて積雪量も多く、日本海型気候を呈しており、周辺の大崎市(川渡)や栗原市(駒ノ湯)では、平成15年～24年の気象観測データによる10年間の平均は、最高気温は34℃(川渡)、最低気温は-13℃、年平均気温9℃前後、年降水量1,600～2,000mm、最深積雪121cmとなっている。これに対して南三陸の太平洋沿岸は、寒暖の差が小さい海洋性の気候を呈しており、冬

季の季節風が弱く夏季の降水量も少なく、南三陸町(志津川)では、最高気温は34℃、最低気温は-8℃、年平均気温は11℃、年降水量1,300mmとなっている。また、内陸平野部は、季節風による影響が少ない。

(4) 林況

ア 人工林

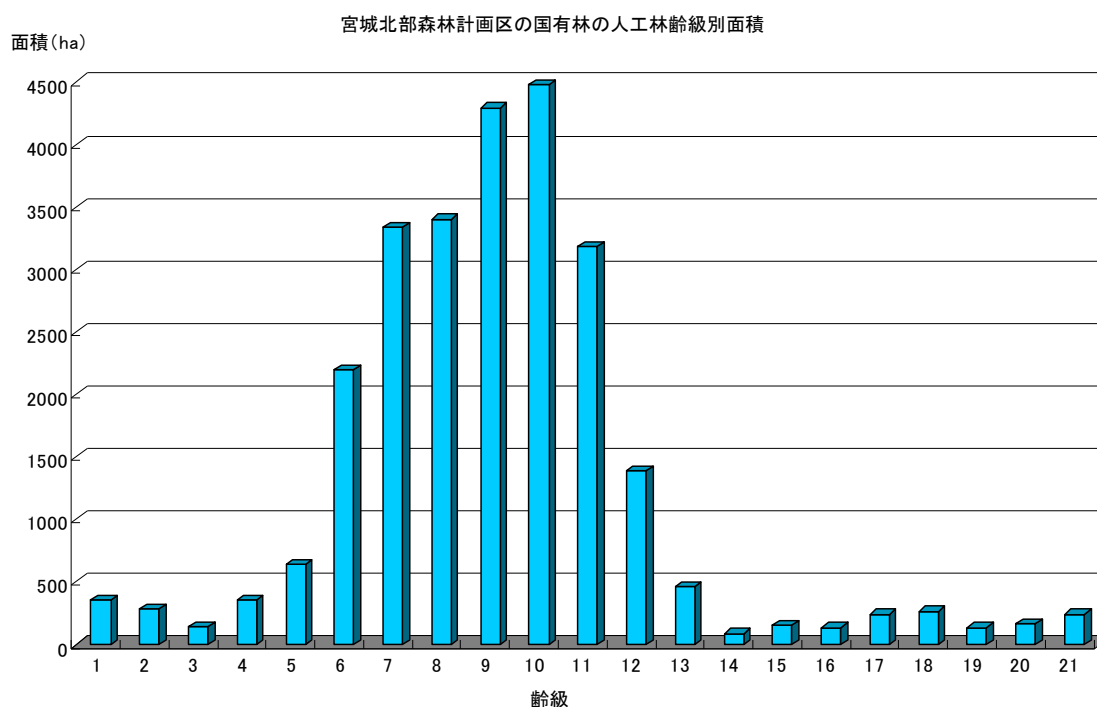
人工林面積は26千haで、立木地面積66千haの39%を占めている。

また、人工林蓄積は5,413千m³で、総蓄積12,248千m³の44%を占めており、樹種別ではスギが58%、カラマツが5%、アカマツが18%となっている。

齢級配置は、7齢級～11齢級が全体の72%を占めており偏ったものとなっている。

イ 天然林

天然林は40千haで、立木地面積の61%を占めており、ブナ類を主とする広葉樹林が大半を占めている。



3 社会経済的背景

(1) 土地利用の現況

本森林計画区の総面積は450千haで宮城県の総面積の66%を占めている。

土地の利用状況は、森林が248千haで計画区面積の55%を占め、農地が21% (水田18%)、その他が24%となっている。

(2) 地域産業の概要

本森林計画区の就業者総数は351千人で、その産業別の就業割合は第一次産業11%、第二次産業28%、第三次産業60%となっている。

総生産額は約2兆1,027億円、その産業別の割合は第一次産業4%、第二次産業24%、第三次産業72%となっている。

県全体の割合（第一次産業1%、第二次産業19%、第三次産業79%）に比べ、第一次産業は高い数字を示しており、沿岸漁業、稲作農業、優良林業地が多い地域の特徴を表している。

また、石巻市を中心とした木材関連工場や気仙沼市等の水産加工業のほか、大崎市鳴子温泉の「こけし」をはじめ、各地の特産地場産業が活発である。

平成23年3月に発生した東日本大震災により広範にわたる地域が甚大な被害を受け、国の総力を挙げて震災からの復旧に向けた取組が進められている。

なお、第一次産業に占める林業の割合は、産業別就業者数で2%、総生産額では3%となっている。

(3) 計画区における国有林の位置付け

本森林計画区の国有林面積は71千haで、計画区内の土地面積450千haの55%、森林面積248千haの28%を占めている。

また、本森林計画区は貴重な野生動植物が多く生育・生息しており、生物多様性保全の観点から、栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域等の各種保護林を設定しているほか、「奥羽山脈緑の回廊」を設定している。

このほか、奥羽山脈の山岳地帯は主要河川の源流部であり、沿岸地域の養殖等の漁業への水資源の確保に重要な役割を果たしている。また、金華山、栗駒山等は自然景観が優れており、レクリエーションなど保健休養の場としても多く利用されている。



【世界谷地から栗駒山を望む（栗原市）】

第2 前期計画の実行結果の概要及びその評価

前計画の前半5ヵ年（平成21年度～平成25年度）の実行結果の概要については、次のとおりである。（平成25年度は実行予定を計上している。）

主伐については、分収林の契約相手の意向による繰り上げ伐採などにより、計画を上回る実績となった。

間伐については、地球温暖化対策に資するための間伐等の森林整備を積極的に推進したが、現行計画量をやや下回る実績となった。

人工造林については、皆伐箇所の新植による確実な更新を実施したが、平成23年度に発生した東日本大震災の影響等による立木販売箇所の搬出期間の延長に伴い、更新が次期計画に持ち越したことなどにより、計画をやや下回る実績となった。

天然更新については、大震災の影響等による立木販売箇所の買受辞退が生じるなどにより、計画を下回る実績となった。

林道等の開設については、豪雨等の自然災害により、当初見込まれていなかった災害箇所の拡張（改良）に優先的に対応したため、計画を下回る実績となった。

治山事業については、平成21年の岩手・宮城内陸地震や豪雨等の災害の発生により、当初見込まれていなかった箇所の災害復旧に優先して対応し、また、地球温暖化対策に資するための本数調整伐を積極的に推進したため、計画を上回る実績となった。

○ 前計画の前半5ヵ年の実行結果の概要

	計 画	実 行
伐採立木材積	548 千m ³	510 千m ³ (93)
主伐	163 千m ³	202 千m ³ (124)
間伐	385 千m ³	308 千m ³ (80)
造林面積	418 ha	342 ha (82)
人工造林	395 ha	325 ha (82)
天然更新	23 ha	17 ha (74)
林道等の開設又は拡張	開設：44.6km 拡張：2箇所	開設：19.7km (44) (舗装)： 箇所 (改良)：30箇所
保安林等の整備	指定：546ha 解除： ha	指定： ha 解除： 9ha
水源涵養 ^{かん}	指定：546ha 解除： ha	指定： ha 解除： 9ha
災害防備	指定： ha 解除： ha	指定： ha 解除： ha
保健、風致の保存等	指定： ha 解除： ha	指定： ha 解除： ha
治山事業	59 地区	89地区

注 () 内の数値は計画量に対する実行量の割合 (%) である。

第3 計画樹立に当たっての基本的な考え方

森林は、国土の保全、水源の涵養^{かん}、地球温暖化防止等の多面的機能の発揮を通じて、国民が安全で安心して暮らせる社会の実現に重要な役割を果たしており、また、木材等の林産物の供給源として地域の経済活動と深く結びつくなど、我が国が有する貴重な再生可能資源である。その恩恵を国民が将来にわたって永続的に享受するには、森林を適正に整備・保全することが重要である。

とりわけ、戦後に積極的に造成された人工林を主体に蓄積が年々増加しており、今後多くの人工林が利用期を迎えつつある。これらの森林資源を有効に利用にしながら森林の有する多面的機能の持続的な発揮を図るため、森林の現況、立地条件及び国民のニーズ等を踏まえつつ、施業方法を適切に選択し、計画的に森林の整備及び保全を進めながら、望ましい森林の姿を目指すこととする。

その際、全ての森林は多種多様な生物の生育・生息の場として生物多様性の保全に寄与していることを踏まえ、一定の広がりにおいてその土地固有の自然条件・立地条件に適した様々な生育段階や樹種から構成される森林がバランス良く配置されていることが望ましい。

さらに、これらの森林の整備及び保全の展開基盤として、路網整備の推進等の条件整備に取り組むことが必要である。

また、岩手宮城内陸地震や東日本大震災による被害箇所について、地域の関連する復興計画等と連携・調整をしつつ、生物多様性の保全にも考慮して、災害復旧や海岸防災林の復旧・再生に向けた取組を進めることとする。

この計画においては、このような基本的な考え方に沿って、森林の整備及び保全の目標、森林施業に関する指針や路網整備に関する目標等森林の整備に関する事項、治山や森林の保護の方針等森林の保全に関する事項を明らかにすることとする。

なお、計画の樹立に当たっては、全国森林計画の計画事項に即しつつ、本森林計画区の特徴及び森林・林業等に関する諸施策の実施状況等を考慮し、民有林・国有林間での一層の連携強化のもと、その効率的な実行が図られるものとなるよう配慮することとする。

Ⅱ 計画事項

第1 計画の対象とする森林の区域

宮城北部国有林の地域別の森林計画の対象とする森林面積は下表のとおりである。

単位 面積：ha

市 町 村	面 積 (ha)	備 考
総 数	70,633.78	
石 巻 市	8,069.46	宮城北部森林管理署
気 仙 沼 市	4,243.41	〃
登 米 市	2,653.95	〃
栗 原 市	14,184.21	〃
東 松 島 市	165.21	〃
大 崎 市	18,829.84	〃
大 和 町	3,539.75	〃
色 麻 町	1,593.74	〃
加 美 町	15,386.22	〃
女 川 町	233.13	〃
南 三 陸 町	1,734.86	〃

注1 計画の対象とする森林の区域は、森林計画図において表示する区域内の国有林とする。

2 森林計画図の縦覧場所は、東北森林管理局計画課及び宮城北部森林管理署とする。

第2 森林の整備及び保全に関する基本的な事項

1 森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的な事項

(1) 森林の整備及び保全の目標

本森林計画区の国有林においては、流域における農業その他経済活動の基盤となる安定的な水資源の確保に資するよう、全面的に水源涵養機能の維持増進を図ることとする。そのため、育成単層林については、除伐、間伐等を適切に実施し、健全な森林の育成に努めるとともに、立地条件に応じて育成複層林への転換を推進することとする。また、地質的に脆弱な地域等において、山地災害防止機能／土壤保全機能の維持増進に配慮した森林整備を推進する。

さらに、地質、気候等の地域の特性に応じた治山施設の整備を推進することとする。また、平成20年岩手・宮城内陸地震により発生した山腹崩壊等や平成23年東日本大震災により被災した海岸防災林等の復旧を引き続き推進する。松くい虫による被害及びナラ枯れ被害については、未被害地域への拡散防止及び被害の抑制に努めることとする。

本森林計画区の国有林は、栗駒国定公園、県立自然公園船形連峰等、原生的あるいは優れた景観を有し、かつスキーや登山等の森林を利用したレクリエーションや保健休養の場として多くの人々に利用される森林も多く、このような森林においては、保健・レクリエーション機能及び生物多様性保全機能の維持増進に配慮して整備・保全していくこととする。

以上の目標の実現を図るに当たり、森林の有する各機能について、その機能発揮の上から望ましい森林資源の姿は次のとおりである。

(水源涵養機能)

下層植生とともに樹木の根が発達することにより、水を蓄える隙間に富んだ浸透・保水能力の高い森林土壌を有する森林であって、必要に応じて浸透を促進する施設等が整備されている森林。



(山地災害防止機能／土壤保全機能)

下層植生が生育するための空間が確保され、適度な光が射し込み、下層植生とともに樹木の根が深く広く発達し土壌を保持する能力に優れた森林であって、必要に応じて山地災害を防ぐ施設が整備されている森林。



(快適環境形成機能)

大気の浄化、騒音、飛砂や風を防ぐなど良好な生活環境を保全するために、樹高が高く枝葉が多く茂っているなど遮蔽能力や粉塵等の汚染物質の吸着能力が高く、諸被害に対する抵抗性が高い森林。



(保健・レクリエーション機能)

身近な自然や自然とのふれあいの場として適切に管理され、多様な樹種等からなり、住民等に憩いと学びの場を提供している森林であって、必要に応じて保健・教育活動に適した施設が整備されている森林。



(文化機能)

史跡・名勝等と一体となって潤いのある自然景観や歴史的風致を構成している森林であって、必要に応じて文化活動に適した施設が整備されている森林。



(生物多様性保全機能)

原生的な森林生態系、希少な生物が生育・生息する森林、陸域・水域にまたがり特有の生物が生育・生息する溪畔林。

なお、本機能については、伐採や自然の攪乱などにより時間軸を通して常に変化しながらも、一定の広がりにおいて様々な生育段階や樹種から構成される森林が相互に関係しつつ発揮される機能であり、上記の森林など属地的な発揮が期待されるものを除き、特定の森林が対象とはならない。



(木材等生産機能)

林木の生育に適した土壌を有し、木材として利用する上で良好な樹木により構成され成長量が高い森林であって、林道等の基盤施設が適切に整備されている森林。



(2) 森林の整備及び保全の基本方針

森林の整備及び保全に当たっては、森林の有する多面的機能を高度に発揮させるため、生物多様性の保全及び地球温暖化の防止に果たす役割並びに近年の地球温暖化に伴い懸念される集中豪雨の増加等の自然環境の変化も考慮しつつ、適切な森林施業の実施や森林の保全の確保により健全な森林資源の維持造成を推進する。また、これらを踏まえ森林の状況を適確に把握するための森林資源のモニタリングの適切な実施や森林GISの効果的な活用を図ることとする。

具体的には、森林の有する諸機能が発揮される場である「流域」を基本的な単位として、森林の有する水源涵養、山地災害防止／土壤保全、快適環境形成、保健・レクリエーション、文化、生物多様性保全及び木材等生産の各機能を高度に発揮するための適切な森林施業の実施、林道等の路網の整備、委託を受けて行う森林施業又は経営の実施、保安林制度の適切な運用、治山施設の整備、森林病虫害や野生鳥獣害による被害への対策などの森林の保護等に関する取組を推進する。

また、機能類型区分に応じた適切な施業の結果得られる木材については、計画的に供給する。

森林の有するこれらの機能ごとの森林整備及び保全の基本方針を表のとおり定める。

森林の有する機能	森林整備及び保全の基本方針
水源涵養機能	<p>ダム集水区域や主要な河川の上流に位置する水源地周辺の森林並びに地域の用水源として重要なため池、湧水地及び溪流等の周辺に存する森林は、水源涵養機能の維持増進を図ることとする。</p> <p>具体的には、良質な水の安定供給を確保する観点から、適切な保育・間伐を促進しつつ、下層植生や樹木の根を発達させる施業を基本とするとともに、伐採に伴って発生する裸地については、縮小及び分散を図ることとする。また、立地条件や国民のニーズ等に応じ、天然力も活用した施業を推進することとする。</p> <p>ダム等の利水施設上流部等において、水源涵養の機能が十全に発揮されるよう、保安林の指定やその適切な管理を推進することを基本とする。</p>
山地災害防止機能／土壤保全機能	<p>山腹崩壊等により人命・人家等施設に被害を及ぼすおそれがある森林など、土砂の流出、土砂の崩壊の防備その他山地災害の防備を図る必要のある森林は、山地災害防止機能／土壤保全機能の維持増進を図ることとする。</p> <p>具体的には、災害に強い国土を形成する観点から、地形、地質等の条件を考慮した上で、林地の裸地化の縮小及び回避を図る施業を推進することとする。また、立地条件や国民のニーズ等に応じ、天然力も活用した施業を推進することとする。</p> <p>集落等に近接する山地災害発生の危険性が高い地域等において、土砂の流出防備等の機能が十全に発揮されるよう、保安林の指定やその適切な管理を推進するとともに、溪岸の侵食防止や山脚の固定等を図る必要がある場合には、谷止や土留等の施設の設置を推進することを基本とする。</p>

森林の有する機能	森林整備及び保全の基本方針
快適環境形成機能	<p>国民の日常生活に密接な関わりを持つ里山等であって、騒音や粉塵等の影響を緩和する森林及び森林の所在する位置、気象条件等からみて風害、霧害等の気象災害を防止する効果が高い森林は、快適環境形成機能の維持増進を図ることとする。</p> <p>具体的には、地域の快適な生活環境を保全する観点から、風や騒音等の防備や大気浄化のために有効な森林の構成の維持を基本とし、樹種の多様性を増進する施業や適切な保育・間伐等を推進することとする。</p> <p>快適な環境の保全のための保安林の指定やその適切な管理、防風、防潮等に重要な役割を果たしている海岸林等の保全を推進することとする。</p>
保健・レクリエーション機能	<p>観光的に魅力のある高原、渓谷等の自然景観や植物群落を有する森林、キャンプ場や森林公園等の施設を伴う森林など、国民の保健・教育的利用等に適した森林は、保健・レクリエーション機能の維持増進を図ることとする。</p> <p>具体的には、国民に憩いと学びの場を提供する観点から、立地条件や国民のニーズ等に応じ広葉樹の導入を図るなどの多様な森林整備を推進することとする。また、保健等のための保安林の指定やその適切な管理を推進することとする。</p>
文化機能	<p>史跡、名勝等の所在する森林や、これらと一体となり優れた自然景観等を形成する森林は、潤いある自然景観や歴史的風致を構成する観点から文化機能の維持増進を図ることとする。</p> <p>具体的には、美的景観の維持・形成に配慮した森林整備を推進することとする。また、風致のための保安林の指定やその適切な管理を推進することとする。</p>
生物多様性保全機能	<p>森林生態系の不確実性を踏まえた順応的管理の考え方にに基づき、時間軸を通して適度な攪乱により常に変化しながらも、一定の広がりにおいてその土地固有の自然条件・立地条件に適した様々な生育段階や樹種から構成される森林がバランス良く配置されていることを目指すものとする。</p> <p>とりわけ、原生的な森林生態系、希少な生物が生育・生息する森林、陸域・水域にまたがり特有の生物が生育・生息する溪畔林などの属地的に機能の発揮が求められる森林については、生物多様性保全機能の維持増進を図る森林として保全することとする。また、野生生物のための回廊の確保にも配慮した適切な保全を推進することとする。</p>
木材等生産機能	<p>林木の生育に適した森林で、効率的な森林施業が可能な森林は、木材等生産機能の維持増進を図ることとする。</p> <p>具体的には、木材等の林産物を持続的、安定的かつ効率的に供給する観点から、森林の健全性を確保し、木材需要に応じた樹種、径級の林木を生育させるための適切な造林、保育及び間伐等を推進することを基本とする。この場合、施業の集団化や機械化を通じた効率的な整備を推進することを基本とする。</p>

(3) 計画期間において到達し、かつ、保持すべき森林資源の状態等

単位 面積：ha、蓄積：m³/ha

		現 況	計画期末
面積	育成単層林 〔 森林を構成する林木を皆伐により伐採し、人為※ ₁ により単一の樹冠層を構成する森林として成立させ維持する森林 〕	25,684	25,063
	育成複層林 〔 森林を構成する林木を択伐※ ₂ 等により伐採し、人為により複数の樹冠層※ ₃ を構成する森林として成立させ維持する森林 〕	4,424	4,500
	天然生林※ ₄ 〔 主として天然力※ ₅ を活用することにより成立させ維持する森林 〕	35,846	35,853
森林蓄積 (ha当たり)		186	192

※1 「人為」とは、目的に応じ、植栽、更新補助（天然下種更新のための地表かきおこし・刈払い等）、芽かき、下刈、除伐等の保育及び間伐等の作業を行うこと。

※2 「択伐」とは、森林内の成熟木を数年～数十年ごとに計画的に繰り返し伐採すること。

※3 「複数の樹冠層」とは、林齢や樹種の違いから樹木の高さが異なることにより生じるもの。

※4 「天然生林」には、未立木地、竹林等を含む。

※5 「天然力」とは、自然に散布された種子が発芽・生育することをいう。

2 その他必要な事項

(1) 溪畔周辺の整備・保全

溪流沿いや湖沼の周囲等溪畔周辺については、流域全体の生物多様性の保全に大きく貢献し、水系への土砂流出の抑制等公益的機能の発揮上重要な役割を果たしていることから、溪畔周辺の保全及びその機能や役割の維持・増進が図られるよう、本来成立すべき植生による上流から下流までの連続性の確保に努める。

第3 森林の整備に関する事項

森林施業を実施するに当たっては、第2の1に定める森林の整備及び保全の目標その他森林の整備及び保全に関する基本的事項によるほか、次に掲げる基準によるものとする。

なお、保安林及び保安施設地区内の森林並びに森林法施行規則（昭和26年農林省令第54号）第7条の2に規定されている森林については、保全対象又は受益対象を同じくする森林ごとに制限の目的の達成に必要な施業を行うこととする。

また、森林の生物多様性の保全の観点から、施業の実施に当たっては、野生生物の営巣、餌場、隠れ場として重要な空洞木や枯損木、目的樹種以外の樹種であっても目的樹種の成長を妨げないものについては、保残に努めることとする。

1 森林の立木竹の伐採に関する事項

(1) 立木の伐採（主伐）の標準的な方法

ア 育成単層林施業を行う森林

人工造林、ぼう芽更新又は天然下種更新により高い林地生産力が期待される森林及び森林の有する公益的機能の発揮の必要性から植栽を行うことが適当である森林について、以下の事項に留意の上、実施することとする。

(ア) 主伐に当たっては、自然的条件及び公益的機能の確保についての必要性を踏まえ、1箇所当たりの伐採面積の規模、伐採箇所の分散に配慮することとする。1箇所当たりの伐採面積の限度は、おおむね5ha以下（法令等による伐採面積の上限が5ha以下で指定されている場合にあつてはその制限の範囲内）とする。ただし、分収林等の契約に基づく森林は契約内容による。また、林地保全、雪崩及び落石等の防止、寒風害等の各種被害の防止、風致の維持等のため必要がある場合には、所要の保護樹帯を設置することとする。

(イ) 主伐の時期については、立木の標準伐期齢以上とし、地域の森林構成を踏まえ、公益的機能の発揮との調和に配慮し、木材等資源の効率的な循環・利用を考慮して、適切な林齢で伐採することとする。

また、長伐期施業を行う林分の主伐の時期は、標準伐期齢のおおむね2倍程度に相当する林齢に達したときとする。

主な樹種別の主伐の時期は次のとおりとする。

地 区	樹 種	施業方法	主伐の時期	更新方法
全 域	スギ	通常伐期	60	新植
		長伐期	100	新植
	カラマツ	通常伐期	60	新植
		長伐期	80	新植
	アカマツ	通常伐期	50	天然下種
		長伐期	100	天然下種

(ウ) 天然更新を前提とする場合には、種子の結実状況、天然稚樹の生育状況、母樹の保残等に配慮することとする。

イ 育成複層林施業を行う森林

人為と天然力の適切な組み合わせにより複数の樹冠層を構成する森林として成立し、森林の諸機能の維持増進が図られる森林について、以下の事項に留意の上、実施することとする。

なお、主伐に当たっては、複層状態の森林に確実に誘導する観点から自然的条件を踏まえ、森林を構成している樹種、林分構造を勘案して行うこととする。

(ア) 択伐による場合は、森林の有する多面的機能の維持増進が図られる適正な林分構造となるよう、一定の立木材積を維持するものとし、適切な伐採率、繰り返し期間によることとする。

(イ) 天然更新を前提とする場合には、種子の結実状況、天然稚樹の生育状況、母樹の保残等に配慮することとする。

ウ 天然生林施業を行う森林

天然生林施業に当たっては、気候、地形、土壌等の自然的条件、林業技術体系等からみて、主として天然力を活用することにより適確な更新及び森林の諸機能の維持増進が図られる森林について、以下の事項に留意の上、実施することとする。

(ア) 主伐に当たっては、イの主伐についての留意事項によることとする。

(イ) 国土の保全、自然環境の保全、種の保存等のために禁伐その他の施業を行う必要のある森林については、その目的に応じて適切な施業を行うこととする。

(2) 立木の標準伐期齢

標準伐期齢は、森林の有する公益的機能、既往の平均伐採齢及び森林の構成を勘案し、樹種ごとに平均成長量が最大となる年齢を基準として次のとおり定める。

なお、標準伐期齢は、流域を通じた立木の伐採（主伐）の時期に関する指標として定めるものであり、保安林の伐採規制等に用いられるものである。

地 区	樹 種						
	スギ	ヒノキ	アカマツ クロマツ	カラマツ	その他 針葉樹	クヌギ	その他 広葉樹
全 域	35	40	35	30	40	10	20

2 造林に関する事項

(1) 人工造林に関する基本的な事項

ア 人工造林の対象樹種

人工造林における造林すべき樹種は、適地適木を原則とし、気候、地形、土壌等の自然条件を適確に把握した上で、既往の造林地における生育状況等も勘案して、現地の状況に

最も適合した樹種を選定することとする。

イ 人工造林の植栽本数

人工造林における植栽本数は、下表を目安とし、立地条件及び有用天然木の稚幼樹の成
立状況等に応じて調整する。

なお、複層林施業については、下表の植栽本数に複層伐の伐採率を乗じて得られる本数
を目安とする。

ただし、保安林で植栽指定のある場合は、その指定本数以上とする。

単位：本/ha

樹種	植栽本数
スギ	2,500～3,000
ヒノキ	3,000～3,500
カラマツ	2,000～2,500

ウ 人工造林の標準的な方法

(ア) 地拵

林地の保護及び地力の維持を図りつつ確実な更新を行うため、末木枝条の存置状況、植
生、地形等に応じた効率的な作業方法を選択することとする。

アカマツ、ブナ等の有用天然木の稚幼樹が群状に生育している場合は、これを育成して
いくこととする。

(イ) 植付

健全な苗木を用い、適期、適作業により活着率の向上と植栽当年からの旺盛な成長が期
待できるよう実施する。

エ 伐採跡地の人工造林すべき期間

公益的機能の維持、早期回復を図るため、人工造林によるものについては、原則として
2年以内とする。

(2) 天然更新に関する基本的な事項

ア 天然更新の対象樹種

天然更新補助作業の対象樹種は、アカマツ、ブナ等の有用天然木とする。

イ 天然更新の標準的な方法

更新を確保し、成林させるため、地表処理、刈出し、植込み等の更新補助作業を実施す
ることが必要かつ適当な森林については、それぞれの森林の状況に応じた方法により、施
業を行うこととする。

また、天然更新完了確認調査において、更新完了の目途が立たないと判断される場合は、
刈出し等の更新補助作業を行うなど必要な措置を講ずるものとする。

(ア) 地表処理

ササや粗腐植の堆積等により天然更新が阻害されている箇所において、かき起こし等の作業を行うこととする。

(イ)刈出し

ササなどの下層植生により天然稚樹の生育が阻害されている箇所について行うこととする。

(ウ)植込み

天然稚樹等の生育状況等を勘察し、天然更新の不十分な箇所に必要な本数を植栽することとする。

3 間伐及び保育に関する事項

(1) 間伐の標準的な方法

ア 間伐の時期

間伐は、林冠が閉鎖して林木相互間の競争による優劣が生じた時期から行うものとするが、その目安は上層木樹高がおおむね9 m、かつ収量比数がスギで0.60以上、アカマツで0.70以上、カラマツで0.65以上とする。

ただし、これらの目安に満たない林分においても、林分状況や近隣林分の間伐の実施状況等を踏まえ、間伐を実施することが適当と判断される場合は実施できるものとする。

イ 間伐の繰り返し期間

林冠が再び閉鎖する期間と間伐効果が成長に及ぼす期間を考慮して決定することとし、その目安はおおむね10年（ただし、カラマツにあっては8年）とする。

ただし、高齢級（60年生以上）の林分については、林冠の閉鎖する期間を考慮して、15年以上を目安とする。

ウ 最終間伐の時期

主伐予定時期のおおむね10年前（ただし、カラマツにあっては8年前）とする。

エ 間伐率

材積間伐率は35%を超えないものとする。

なお、保安林指定施業要件等、法令により間伐率に制限が定められている場合は、その範囲内とする。

(2) 保育の標準的な方法

林木の保育は、健全な森林を確実に造成することを目的とし、その標準的な方法は以下のとおりとする。なお、その実施に当たっては画一性を排し、植栽木の生育状況等現地の実態に即した効果的な作業の時期、回数等を十分検討の上、適切に行うこととする。

ア 作業時期、回数

樹種	作業別	保育作業計画（年）														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
スギ	下刈	△	○	○	○	○	△									
	つる切・除伐							←	○	→		←	○	→		
アカマツ	下刈	人工林	○	○	○	○	△									
		天然林	◎	◎	○	○	○									
	つる切・除伐						←	○	→		←	○	→			
カラマツ	下刈	○	○	○	△											
	つる切・除伐					←	○	→		←	○	→				

注 ◎は2回刈り、△は必要に応じて実施することを示す。

イ 施業方法の基準

(ア) 下刈

植栽木、有用天然木の生育状況及び植生の状況等現地の実態により適切な作業方法を採用し、効率的な作業を行うこととする。下刈終期の目安は、植栽木の高さが雑草木より抜き出て、植栽木の生育に支障がなくなった時期とする。

(イ) つる切

つる類の繁茂状況により必要に応じ実施することとする。なお、かん木類の発生状況を勘案して極力除伐作業と同時に行うこととする。

(ウ) 除伐

下刈の終了後、林分が閉鎖するまでの段階で有用天然木の育成に配慮しつつ、目的樹種の生育を阻害している侵入木及び将来育成の見込みのない形質不良な植栽木の除去を目的として行うこととする。

なお、豪雪地帯における急激な疎開は、雪害の危険があるので植栽木と侵入木の相互の配置状況を考慮し漸進的に行うこととする。

4 公益的機能別施業森林等の整備に関する事項

(1) 公益的機能別施業森林の区域

公益的機能別施業森林の区域については以下の考え方に従い、別表のとおり定める。

ア 水源涵養機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

水源涵養機能の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、当該区域に係る地域の要請等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりを持たせて定める。ただし、狭小な区域を定めることに特別な意義を有する治山事業施工地等は除く。

イ 森林の有する土地に関する山地災害防止機能／土壤保全機能、快適環境形成機能又は保健機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

(ア) 山地災害防止機能／土壤保全機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

山地災害防止機能／土壤保全機能の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、当該区域に係る地域の要請等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりを持たせて定める。ただし、狭小な区域を定めることに特別な意義を有する治山事業施工地等は除く。

(イ) 快適環境形成機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

快適環境形成機能の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、地域住民の意向等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりを持たせて定める。

(ウ) 保健機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

保健機能／文化機能／生物多様性保全機能の高度発揮が求められている森林について、森林の位置及び構成、地域住民の意向等を勘案しつつ、管理経営の一体性の確保の観点から、その配置についてできるだけまとまりを持たせて定める。ただし、狭小な区域を単位として定めることに特別な意義を有する保護林、レクリエーションの森等は除く。

(2) 公益的機能別施業森林における森林施業の方法

ア 水源涵養機能^{かん}の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

当該区域内における施業の方法は、伐期の間隔の拡大及び伐採面積の縮小・分散を図ることを基本として、下層植生の維持（育成複層林施業にあっては下層木の適確な生育）を図りつつ、根系の発達を確保するとともに、立地条件に応じて長伐期施業、択伐による複層林施業、択伐以外の方法による複層林施業を推進することとする。

イ 森林の有する土地に関する山地災害防止機能／土壤保全機能、快適環境形成機能又は保健機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

当該区域内における施業の方法は、それぞれの区域の機能に応じて森林の構成を維持し、樹種の多様性を増進することを基本として、長伐期施業、択伐による複層林施業、択伐以外の方法による複層林施業など、良好な自然環境の保全や快適な利用のための景観の維持・形成を目的とした施業の方法を選択することとする。

5 林道等の開設その他林産物の搬出に関する事項

(1) 林道（林業専用道を含む。以下同じ。）等の開設及び改良に関する基本的な考え方

林道等の開設及び改良については、傾斜等の自然条件、事業量のまとまり等地域の特性に応じて、環境負荷の低減に配慮し、木材の搬出を伴う間伐の実施や多様な森林への誘導等に必要なる森林施業を効果的かつ効率的に実施するため、路網と高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な作業システムに対応したものとする。また、林道の開設に当たっては、森林の利用形態や地形・地質等に応じて、丈夫で簡易な規格・構造を柔軟に選択するとともに

に、森林施業の優先順位に応じた整備を推進することとする。

○ 基幹路網の現状

単位 延長：km

	路線数	延長
基幹路網	143	453
うち林業専用道を含む路線	7	10

注1 基幹路網は自動車道、軽車道の計である。

注2 現状については、平成25年3月31日現在の数値である。

(2) 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準及び作業システムの基本的な考え方
高性能林業機械を含む機械作業システムの導入を推進するとともに、効率的な森林施業に資するため、路網密度を目安に路網整備を一層推進する。

○ 効率的な森林施業を推進するための路網密度の水準

単位 路網密度 m/ha

	作業システム	路網密度	
			基幹路網
緩傾斜地 (0° ~15°)	車両系作業システム	100以上	35以上
中傾斜地 (15° ~30°)	車両系作業システム	75以上	25以上
	架線系作業システム	25以上	25以上
急傾斜地 (30° ~35°)	車両系作業システム	60以上	15以上
	架線系作業システム	15以上	15以上
急峻地 (35° ~)	架線系作業システム	5以上	5以上

注1 「車両系作業システム」とは、林内にワイヤーロープを架設せず、車両系の林業機械により林内の路網を移動しながら木材を集積、運搬するシステム。フォワーダ等を活用する。

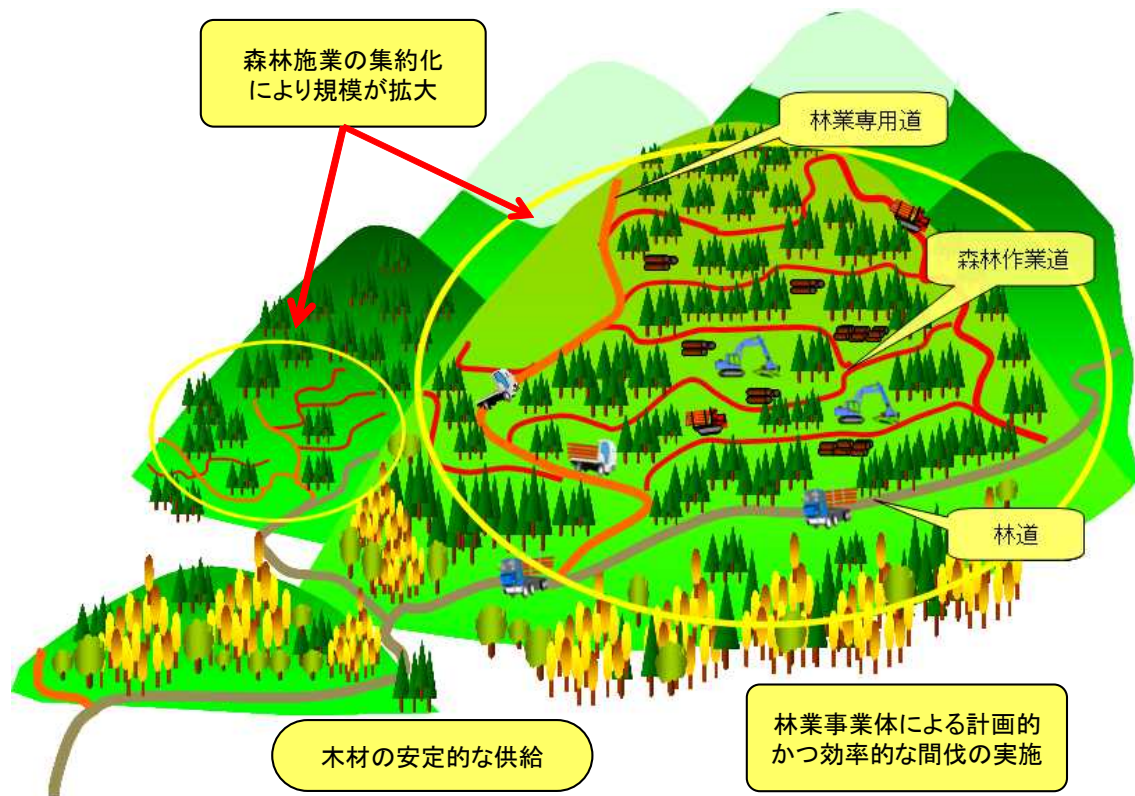
注2 「架線系作業システム」とは、林内に架設したワイヤーロープに取り付けた搬器等を移動させて木材を吊り上げて集積するシステム。タワーヤード等を活用する。

(3) 更新を確保するため林産物の搬出方法を特定する必要がある森林の所在及びその搬出方法

該当なし。

(4) その他必要な事項

林道等の開設に当たっては、林地の保全に留意するとともに、民有林との連携を図りつつ、公道、民有林林道の配置状況等を勘案して路網の整備に努めることとする。



【効率的な森林施業のイメージ】

6 森林施業の合理化に関する事項

(1) 林業に従事する者の養成及び確保に関する方針

森林の流域管理システムの確立及び国有林野事業における事業の民間実行の徹底を図る上で、合理的かつ効率的な事業規模、機械装備等を有する経営体質の強い林業事業者の育成・強化が重要である。

このため、林業事業者の体質強化、高性能林業機械の開発・導入、林業労働者の就労条件の改善、労働安全衛生の確保等に関する一般林政施策の充実とあいまって、国有林野事業としても次の方策により林業事業者の育成・強化を図るとともに、これらを通じて優れた林業労働者の確保に資することとする。

ア 事業の計画的・安定的な発注等により経営の安定化を図る。

イ 事業主への労働安全衛生対策に関する指導、就労条件の改善への配慮等を行うとともに、森林施業の多様化等に対応した実行体制を確保しうよう施工管理体制の確立に関する指導や技術指導等を行う。

(2) 作業システムの高度化に資する林業機械の導入の促進に関する方針

作業システムの高度化については、森林施業の効率化や労働災害の減少等に資する高性能林業機械の導入が重要であり、これまで国有林・民有林が連携してその普及に努めた結果、着実に広まってきているものの、高性能林業機械の作業性能を最大限に引き出した作業システムへの移行が進展せず、労働生産性の向上、生産コストの縮減に繋がっていない状況が見

られる。

このため、民有林関係者と連携を図りつつ、現地検討会等を通じた高性能林業機械を含む機械作業システムの指導・普及、オペレーターを養成するための研修フィールドの提供に取り組むほか、路網の整備、事業規模の確保に配慮した請負事業の発注に努め、林業事業体の高性能林業機械導入の促進に寄与するよう努めることとする。

(3) 林産物の利用促進のための施設の整備に関する方針

間伐材のシステム販売等を通じて木材の計画的、安定的な供給や供給ロットの拡大に努め、木材の安定的取引関係の確立等による流通・加工コストの低減に寄与し、需要者ニーズに即した製品を供給しうる体制の確立に民有林と連携しながら取り組むこととする。

第4 森林の保全に関する事項

1 森林の土地の保全に関する事項

(1) 樹根及び表土の保全その他森林の土地の保全に特に留意すべき森林の地区

単位 面積：ha

森 林 の 所 在		面 積	留意すべき事項	備 考
市 町 村	区 域 (林班)			
総 数		64,745.36		
石 巻 市	502～512, 514～532, 538～540, 542～543, 550～573, 575～597, 649	7,217.39	1 保安林等については、指定の目的の達成に必要な施業を行う。 2 立木の伐採に当たっては、山地災害防止機能等に支障を及ぼすことのないよう留意する。土地の形質変更は極力行わない。やむを得ず行う場合は、必要最小限の規模とし、土砂の流出の防止等の施設を設けるなど林地の保全に十分留意するものとする。	
気 仙 沼 市	301～308, 310～324, 326, 328～331, 336～338, 344～3466, 345～354	2,806.97		
登 米 市	621～648, 650, 652	2,319.99		
栗 原 市	2～5, 7～13, 15～16, 19～22, 24～46, 53～60	13,367.37		
大 崎 市	101～156, 159, 161～162	18,087.90		
大 和 町	258, 260～266, 268～272, (大) 1, 3～4	2,649.46		
色 麻 町	253～257	1,589.95		
加 美 町	201～252, 277～282, 285～289, (小) 2～4, 6	14,839.99		
女 川 町	534～537	230.76		
南 三 陸 町	360～369, 371～381	1,636.08		

注 () 書きは官行造林地で契約者等名称は下記のとおり

(大)：大和町宮床財産区

(小)：小野田町 [現：加美町]

(2) 森林の土地の保全のための林産物の搬出方法を特定する必要がある森林及びその搬出方法

該当なし。

(3) 土地の形質の変更に当たっての留意すべき事項

土地の形質の変更に当たっては、林地の保全に十分に留意することとし、地形及び地質等の条件、土地の形質変更の目的及び内容を勘案して、実施地区の選定を行うこととする。

土石の切取、盛土を行う場合には、法勾配の安定を図り、必要に応じて法面保護のための緑化工、土留工等の施設又は、排水施設等を設けることとする。また、その他の土地の形質の変更を行う場合には、その態様に応じて土砂の流出、崩壊等の防止に必要な施設を設ける等適切な保全措置を講ずることとする。

2 保安施設に関する事項

(1) 保安林の整備に関する方針

本森林計画区における森林に関する自然的条件、社会的要請及び保安林の配備状況を踏まえ、特に公益的機能の発揮が要請される森林については、保安林として適切に管理・保全していくこととする。

また、第3の4で定める公益的機能別施業森林の区域については、その機能を十分に発揮できるよう、必要に応じて保安林の指定施業要件の見直しを行うこととする。

(2) 保安施設地区に関する方針

該当なし。

(3) 治山事業に関する方針

治山事業については、国民の安全・安心の確保を図る観点から、災害に強い地域づくりや水源地域の機能強化を図ることとする。近年、頻発する集中豪雨や地震等による大規模災害の発生のおそれが高まっていることを踏まえ、山地災害による被害を未然に防止・軽減する事前防災・減災の考え方に立ち、緊急かつ計画的な実施を必要とする荒廃地等を対象として、治山施設等の設置と保安林の整備を推進することとする。特に、海岸防災林の整備に当たっては、東日本大震災の教訓を踏まえ、津波に対する被害の軽減効果等を考慮しつつ、防潮工、盛土工及び植栽工等を実施することとする。

また、ダム上流等の重要な水源地や集落の水源地となっている保安林については、浸透・保水能力の高い森林土壌を有する森林の維持・造成を推進することとする。

加えて、流域保全の観点からの関係機関との連携や地域における避難体制の整備などのソフト対策との連携を通じた効果的な治山対策を講ずることとする。



【平成20年岩手・宮城内陸地震により被災した行者滝（栗原市） 復旧前（左）と復旧後（右）】



【平成23年東北地方太平洋沖地震により被災した野々下海岸（気仙沼市） 応急対策（左）と復旧事業の施工状況（右）】

（４）その他必要な方針

保安林の適切な管理を確保するため、保安林台帳の調整、標識の設置、巡視等を適正に行うこととする。

3 森林の保護等に関する事項

（１）森林病虫害等の被害対策の方針

森林病虫害等の被害対策については、保護樹帯の設置、適切な保育の実行等により病虫害等の森林被害に対する抵抗性の高い森林の整備に努めるとともに、被害の未然防止、早期発見及び早期駆除に努め、日常の管理を通じて適時適切に行うこととする。

特に、松くい虫による被害については、県沿岸域を中心として計画区域全体に見受けられることから、被害抑制のための健全な松林の整備と被害木の伐倒駆除等の防除対策の重点化を図るとともに、関係機関と連携した監視活動等の一層の推進を図ることとする。

なお、被害対策の実施にあたっては、松林の機能に応じた適切な防除方法を選択して、効果的な被害対策の推進に努めることとする。

区 分	機 能	防除方法
高度公益 機能森林	保安林として指定された松林及び保安林以外の公益的機能が高い松林であって他の樹種からなる森林によってはその機能を発揮するのが困難なものとして、防除を重点的かつ効率的に実施し、将来にわたって保全していく必要がある松林。	特別伐倒駆除、 衛生伐等
被害拡大 防止森林	松くい虫の被害対策を緊急に行わないとすれば、当該松林に発生している被害が高度公益機能に著しく拡大すると認められる森林。	伐倒駆除、 衛生伐等

また、ナラ枯れ被害については宮城県内陸部で被害が発生していることから、重点的に巡視を行い被害木の早期発見及び徹底駆除に努めるとともに、関係機関と連携の上、適切な防除対策の推進を図ることとする。

(2) 鳥獣による森林被害対策の方針

野生鳥獣による森林被害については、その防止に向け、鳥獣保護管理施策や農業被害対策との連携を図りつつ、森林被害のモニタリングを推進し、その結果を踏まえて、関係機関と連携して広域的な対策を総合的かつ効果的に推進することとする。

また、野生鳥獣との共存にも配慮した針広混交の育成複層林の整備、野生鳥獣と地域住民との棲み分けに配慮した緩衝帯の整備等を推進することとする。

(3) 林野火災の予防の方針

山火事等の森林被害を未然に防止するため、林内歩道等の整備を図りつつ、地元住民、地方公共団体、ボランティア等との連携を図り、林野巡視、山火事警防等を適時適切に実施することとする。

(4) その他必要な事項

森林の適正な保護のため、森林の面積、管理状況等を勘案して、林内歩道等の整備を図るとともに、森林の保護思想の普及のための標識設置等を行うこととする。

第5 計画量等

1 伐採立木材積

単位 材積：1,000m³

区 分	総 数			主 伐			間 伐		
	総 数	針葉樹	広葉樹	総 数	針葉樹	広葉樹	総 数	針葉樹	広葉樹
総 数	1,569	1,567	1	414	412	1	1,155	1,155	0
前半5ヵ年の計画量	841	840	0	259	259	0	582	582	0

注：単位未満を四捨五入しているため、内訳の合計と総数は必ずしも一致しない。

2 間伐面積

単位 面積：ha

区 分	間伐面積
総 数	17,142
前半5ヵ年の計画量	8,738

3 人工造林及び天然更新別の造林面積

単位 面積：ha

区 分	人工造林	天然更新
総 量	946	100
前半5ヵ年の計画量	450	33

4 林道の開設又は拡張に関する計画

単位 延長：km 面積：ha

開設／ 拡張	種類	区分	位置 (市町村)	路線名	延長	利用区 域面積	前半5ヵ年 の計画箇所	対図 番号	備 考
開設	自動 車道	林 業 専用道	石巻市	六ノ峠	1.4	87	○	1	
				釧ヶ下	1.0	180	○	2	
				沢釜沢第2	0.5	83	○	3	
				十三浜相川	1.0	59	○	4	
				十三浜相川第2	2.2	143	○	5	
				小積浜	1.0	87		6	
				袴ヶ岳	0.9	66		7	
				桑浜	1.5	87		8	
				大浜	1.0	100		9	
				明神	1.1	104		10	
				尾崎	1.7	60		11	
			小 計	11路線	13.3				
			気仙沼市	不動山	1.0	127	○	12	
				上鳥沢	2.0	71	○	13	
				駒米沢	1.2	100		14	
				小 計	3路線	4.2			
			登米市	平次郎沢	2.2	97	○	15	
				石積沢	0.8	64	○	16	
				文付沢	1.0	86		17	
				小 計	3路線	4.0			
			栗原市	砥沢	2.7	141	○	18	
				金山第2	0.2	24	○	19	※
				イトリバナ沢	1.5	140		20	
				ぶどう沢	1.0	215		21	
				通内沢	1.6	322		22	
				小 計	5路線	7.0			
			大崎市	高日向	1.4	114	○	23	
				滝の沢第2	1.4	90	○	24	
				金山第2	1.0	118	○	25	※
				文七沢	1.2	194	○	26	
				軽井沢	0.7	821	○	27	
				二ツ森	1.2	85	○	28	
				熊沢	0.8	77	○	29	
小深沢第2	2.0	206			30				
山王	2.0	499			31				
太平山	1.5	153			32				
鈴倉沢	1.5	208			33				
小 計	11路線	14.7							

単位 延長：km 面積：ha

開設／ 拡張	種類	区分	位置 (市町村)	路線名	延長	利用区 域面積	前半5ヵ年 の計画箇所	対図 番号	備 考		
開設	自動 車道	林業 専用道	大和町 小 計	大倉沢	2.0	106		34			
				1路線	2.0						
			色麻町 小 計	小栗山	1.2	198	○	35			
				1路線	1.2						
			女川町 小 計	飯子	1.2	58		36			
				1路線	1.2						
			南三陸町 小 計	松森沢	1.0	154	○	37			
				赤柴沢	1.0	202	○	38			
				トサ沢	0.9	127	○	39			
				水月第2	1.5	142		40			
				戦沢	1.0	123		41			
			合 計				41路線	53.0			
			前半5ヵ年の計画量				22路線	26.8			

※ 対図番号19番及び25番は同一の路線計画（総延長1.2km）

5 保安林整備及び治山事業に関する計画

(1) 保安林として管理すべき森林の種類別面積等

① 保安林として管理すべき森林の種類別の計画期末面積

単位 面積：ha

保安林の種類	面積		備考
		前半5ヵ年の 計画面積	
総数（実面積）	64,127.37	64,127.37	
水源かん養のための保安林	60,816.99	60,816.99	
災害防備のための保安林	4,636.02	4,636.02	
保健、風致の保存等のための保安林	2,745.85	2,745.85	

注 総数欄は、2以上の目的を達成するために指定される保安林があるため、水源かん養のための保安林等の内訳の合計に一致しない。

② 計画期間内において保安の指定又は解除を相当とする森林の種類別の所在及び面積等

単位 面積：ha

指定 解除別	種 類	森林の所在		面 積	指定又は解除を 必要とする理由	備 考
		市町村	区 域			
解 除	水 源 かん養	石巻市	510, 515, 516, 518, 520, 527～529, 531, 568, 569, 649	6.04	道路敷外	
		気仙沼市	324	1.52		
		栗原市	13	0.10		
		加美町	216～219, 223～225	138.50		
	災害の 防備	石巻市	528	0.01	道路敷	
	保 健・ 風 致 の 保 存 等	石巻市	515, 544	0.68	道路敷外	
東松島市		546	3.58			
女川町		536, 537	0.21			

③ 計画期間内において指定施業要件の整備を相当とする森林の面積

該当無し

(2) 保安施設地区として指定することを相当とする土地の所在及び面積等

該当無し

(3) 実施すべき治山事業の数量

単位 地区

森林の所在		治山事業施工地区数		主な工種	備考
市町村	区 域		前半5カ年の計画		
石巻市	502～512, 518, 519, 521～523, 525～528, 530～532, 538, 540, 542～544, 551～553, 555, 556, 558～565, 567, 568, 570, 572～577, 580, 581, 583, 585～593, 596, 597, 649	65	48	溪間工 山腹工 盛土工 植栽工 本数調整伐	
気仙沼市	305～307, 315, 320, 321, 323, 326, 330, 346	10	4	溪間工 植栽工 本数調整伐	
登米市	621～623, 625, 626, 634, 637～639, 642～645, 650, 652	16	8	溪間工 山腹工 本数調整伐	
栗原市	6, 8, 9, 10, 13, 16, 19, 21, 22, 24, 26, 30, 35, 38, 40, 41, 43, 44, 53, 56, 57	21	21	溪間工 山腹工	
東松島市	546, 548, 549	3	3	盛土工 植栽工	
大崎市	101, 103, 105, 107, 110～119, 121, 122, 124, 138～140, 142, 143, 147, 150	24	14	溪間工 山腹工 本数調整伐	
大和町	260～264	5	0	溪間工 山腹工	
色麻町	253, 256	2	2	溪間工	
加美町	206, 207, 210～212, 215～217, 219, 221～223, 227～229, 231, 234～239, 241～244, 246～248, 250, 278, 281, 285～289	37	21	溪間工 山腹工 本数調整伐	
女川町	535～537	3	1	山腹工 本数調整伐	
南三陸町	368, 373, 376, 378, 380	5	0	溪間工 本数調整伐	
合 計		191	122		

第6 その他必要な事項

保安林その他法令により施業について制限を受けている森林の施業方法

単位 面積：ha

種類	森林の所在		面積	施業方法	備考 (重複制限林)
	市町村	区域(林班)			
水かん	石巻市	510～512, 514, 516, 518～520, 522～529, 531, 538～540, 542, 550～557, 560～573, 575～597, 649	5,479.11	別紙1のとおり	定特1 83.64 定特2 321.97 定特3 1,397.70 県特3 100.03 県環特 62.32 鳥保特 62.32 史跡 62.32
	気仙沼市	301～304, 307～308, 310～313, 315～324, 326, 328～331, 337～338, 344～345, 348～354	2,116.88		
	登米市	621～648	2,222.97		
	栗原市	8～13, 15～16, 19～22, 24～46, 53～60	13,248.77		土流 1,394.55 砂指 17.93 定特保 1,362.51 定特1 2,312.82 定特2 598.21 定特3 2,805.33 鳥保特 1,267.02
	大崎市	101～156	17,955.91		保健 310.78 砂指 62.11 定特保 396.16 定特1 3,642.99 定特2 1,674.32 定特3 9,704.96 鳥保特 3.00 史跡 7.54
	大和町	258, 260～266, 268～270, (大) 1, 3～4	2,630.04		保健 500.92 県特1 300.02 県特2 661.89 県特3 1,587.25
	色麻町	253～257	1,568.35		県特1 197.15 県特2 341.99 県特3 1,029.21

単位 面積：ha

種類	森林の所在		面積	施業方法	備考 (重複制限林)
	市町村	区域(林班)			
水かん	加美町	203~207, 209~252, 278, 285~289, (小) 2~4, 6	14, 146. 52	別紙1の とおり	砂指 22. 02 県特1 579. 74 県特2 2, 129. 42 県特3 4, 553. 30 県環特 66. 90
	南三陸町	360~365, 367~369, 372~381	1, 594. 60		
	小計		60, 963. 15		
土流	石巻市	502~509, 516, 528, 542~543, 553, 583	995. 46		保健 860. 91 風致 857. 62 定特保 358. 53 定特1 311. 64 定特2 183. 08 定特3 39. 53 県特3 46. 87 鳥保特 861. 19
	気仙沼市	312, 314, 320, 329~330	246. 03		
	栗原市	3, 11~12, 15, 19~20, 24, 26, 43, 46, 59~60	1, 394. 79		水かん 1, 394. 55 定特保 964. 67 定特1 47. 14 定特2 0. 50 鳥保特 965. 21
	加美町	201, 277, 280~282	506. 32		砂指 1. 95
	小計		3, 142. 60		
	土崩	石巻市	507~509		43. 31
	大崎市	161	24. 55		
	小計		67. 86		

単位 面積：ha

種類	森林の所在		面積	施業方法	備考 (重複制限林)	
	市町村	区域(林班)				
潮害	石巻市	544, 574	22.63	別紙1のとおり	定特3	12.05
	気仙沼市	346, 353	13.68		定特1	0.12
	東松島市	546, 548~549	160.15		定特2	13.56
	小計		196.46		保健	71.79
干害	石巻市	515, 517, 521~522, 530, 558~559	499.87		史跡	9.54
	気仙沼市	305~306, 336	351.08	定特2	24.35	
	登米市	650	71.97	定特3	409.16	
	加美町	208	83.63	砂指	0.62	
	女川町	534~537	222.56			
	小計		1,229.11	定特2	110.40	
魚つき	石巻市	532	73.08	定特3	45.61	
	南三陸町	366, 371	6.83			
	小計		79.91	定特1	67.13	
保健	石巻市	502~509, 541~543	951.49	定特2	5.95	
	東松島市	546	71.79	定特保	6.83	
	大崎市	141~142, 148~149	310.78	史跡	4.83	
				土流	860.91	
				土崩	31.61	
				風致	880.10	
				定特保	358.53	
				定特1	341.64	
				定特2	170.29	
				定特3	9.64	
				県特3	19.01	
				鳥保特	884.06	
				潮害	71.79	
				水かん	310.78	
				砂指	1.46	
				定特1	49.55	
				定特3	261.23	

単位 面積：ha

種類	森林の所在		面積	施業方法	備考 (重複制限林)	
	市町村	区域(林班)				
保健	大和町	260~264, 266	500.92	別紙1のとおり	水かん 500.92	
					県特2 89.74	
					県特3 411.18	
	小計		1,834.98			
風致	石巻市	502~509, 542	901.00			土流 857.62
						土崩 43.31
						保健 880.10
						定特保 358.53
						定特1 353.83
					定特2 178.93	
				定特3 9.64		
				県特3 0.07		
				鳥保特 905.16		
	登米市	652	14.34		県環特 12.68	
	小計		915.34			
	計		68,429.41			
砂指	石巻市	515, 517, 519, 525, 530, 543, 554, 558, 560, 562~564, 566~567, 569, 575~578, 580~582, 585~593, 595~597, 649	33.01	別紙3のとおり	干害 0.62	
					定特2 0.48	
					定特3 5.82	
	気仙沼市	305~306, 316, 318, 324, 326, 331	6.18			
	登米市	641, 645, 647	2.65			
	栗原市	2, 4~5, 7~11, 13, 16, 31~34, 37, 53~56, 58	37.09		水かん 17.93	
					定特1 4.27	
			定特2 0.48			
			定特3 3.99			
	大崎市	101~105, 107, 109~110, 127, 131, 133, 137, 139~140, 142, 145~146, 149, 151, 154~156, 159, 162	67.23	水かん 62.11		
				保健 1.46		
				定特1 11.06		
				定特2 1.79		
				定特3 27.09		
	大和町	272	0.82			

単位 面積：ha

種類	森林の所在		面積	施業方法	備考 (重複制限林)
	市町村	区域(林班)			
砂指	加美町	201~202, 206~207, 209~210, 249, 279~280	28.69	別紙3の とおり	水かん 22.02 土流 1.95 県特3 8.11
	南三陸町	362, 365, 373	4.18		
	計		179.85		
定特保	石巻市	502~509	359.89	別紙2の とおり	土流 358.53 保健 358.53 風致 358.53 鳥保特 359.89
	栗原市	11~12, 15, 20, 38~40, 43, 46	1,392.87		水かん 1,362.51 土流 964.67 鳥保特 1,267.02
	大崎市	124~126, 128~129	396.16		水かん 396.16
	南三陸町	366, 371	6.83		魚つき 6.83 史跡 4.83
	小計		2,155.75		
	定特1	石巻市	502~509, 511~512, 522, 524, 532, 565		533.60
	気仙沼市	346	0.12	潮害 0.12	
	栗原市	10~12, 19~20, 39~40, 42~43, 45, 58~60	2,312.82	水かん 2,312.82 土流 47.14 砂指 4.27	
	大崎市	102, 107~110, 114, 120, 123~126, 128~130, 134~137, 139~142, 148~149	3,685.49	水かん 3,642.99 保健 49.55 砂指 11.06 鳥保特 3.00 史跡 6.24	
	小計		6,532.03		

単位 面積：ha

種類	森林の所在		面積	施業方法	備考 (重複制限林)	
	市町村	区域(林班)				
定特2	石巻市	502～512, 515, 518～522, 524～525, 528～532, 557, 565, 570～571, (牡) 1～2, (石) 5	571.56	別紙2の とおり	水かん	321.97
					土流	183.08
					干害	24.35
					魚つき	5.95
					保健	170.29
					風致	178.93
					砂指	0.48
				鳥保特	179.35	
	気仙沼市	346, 353	15.18		潮害	13.56
	栗原市	13, 15, 19, 38～40	600.50		水かん	598.21
					土流	0.50
					砂指	0.48
	大崎市	105, 111, 124, 131～134, 143～147	1,677.40		水かん	1,674.32
					砂指	1.79
	女川町	536～537	111.69		干害	110.40
	小計		2,976.33			
定特3	石巻市	507, 510～512, 514～531, 557～559, 565～571, 574, (牡) 2, (石) 5	1,987.84		水かん	1,397.70
					土流	39.53
					土崩	1.12
					潮害	12.05
					干害	409.16
					保健	9.64
					風致	9.64
				砂指	5.82	
				鳥保特	10.07	
	栗原市	9, 21, 37～45, 54～57	2,820.85		水かん	2,805.33
					砂指	3.99
	大崎市	101～119, 121～127, 130～131, 133～142, 146～149, 160, (鳴) 6～8	9,998.14		水かん	9,704.96
					保健	261.23
					砂指	27.09
					史跡	1.30
	女川町	535～536	49.12		干害	45.61
	南三陸町	(歌) 1～3	16.75			
	小計		14,872.70			
	計		26,536.81			
県特1	大和町	260～261, 264～265	300.02		水かん	300.02
	色麻町	255, 257	197.61		水かん	197.15

単位 面積：ha

種 類	森 林 の 所 在		面 積	施業方法	備 考 (重複制限林)
	市 町 村	区 域 (林 班)			
県特1	加 美 町	234, 236, 239~240, 245~246, 248, 250	579.77	別紙2の とおり	水かん 579.74
	小計		1,077.40		
県特2	大 和 町	258, 260~261, 264~266, 268~269	669.08		水かん 661.89 保 健 89.74
	色 麻 町	255, 257	344.13		水かん 341.99
	加 美 町	229, 232~234, 236, 239~240, 245~246, 248, 250	2,129.50		水かん 2,129.42
	小計		3,142.71		
県特3	石 巻 市	541~542, 572 (石) 11	227.34		水かん 100.03 土 流 46.87 保 健 19.01 風 致 0.07
	大 和 町	258, 260~264, 266, 268~269, 273~274	1,863.54		水かん 1,587.25 保 健 411.18
	色 麻 町	253~257	1,052.00		水かん 1,029.21
	加 美 町	231~233, 235~239, 241~252	4,496.51		水かん 4,453.30 砂 指 8.11
	小計		7,639.39		
計			11,859.50		
県環特	石 巻 市	591	62.32	別紙3の とおり	水かん 62.32 鳥保特 62.32 史 跡 62.32
	登 米 市	652	12.68		風 致 12.68
	加 美 町	214, 220	66.90		水かん 66.90
	小計		141.90		
県環野	加 美 町	214, 220	17.26		史 跡 17.26
	小計		17.26		
計			159.16		

単位 面積：ha

種 類	森 林 の 所 在		面 積	施 業 方 法	備 考 (重複制限林)
	市 町 村	区 域 (林 班)			
鳥保特	石 巻 市	502~509, 591	967.50	別紙3の とおり	水かん 62.32 土 流 861.19 土 崩 43.97 保 健 884.06 風 致 905.16 定特保 359.89 定特1 355.85 定特2 179.35 定特3 10.07 県環特 62.32 史 跡 62.32
	栗 原 市	11~12, 15, 20, 40, 43, 46	1,267.02		水かん 1,267.02 土 流 965.21 定特保 1,267.02
	大 崎 市	148	3.00		水かん 3.00 定特1 3.00 史 跡 3.00
	計		2,237.52		
史 跡	石 巻 市	591	62.32		水かん 62.32 鳥保特 62.32 県環特 62.32
	東松島市	549	9.54		潮 害 9.54
	大 崎 市	104, 148	7.54		水かん 7.54 定特1 6.24 定特3 1.30 鳥保特 3.00
	加 美 町	214, 220	17.26		県環野 17.26
	南三陸町	371	4.83		魚つき 4.83 定特保 4.83
	計		101.49		

注1 種類及び備考欄の重複制限林の略称は、以下のとおり。

水かん＝水源かん養保安林	定特1＝国定公園第1種特別地域
土流＝土砂流出防備保安林	定特2＝国定公園第2種特別地域
土崩＝土砂崩壊防備保安林	定特3＝国定公園第3種特別地域
潮害＝潮害防備保安林	県特1＝県立自然公園第1種特別地域
干害＝干害防備保安林	県特2＝県立自然公園第2種特別地域
魚つき＝魚つき保安林	県特3＝県立自然公園第3種特別地域
保健＝保健保安林	県環特＝県自然環境保全地域特別地区
風致＝風致保安林	県環野＝県自然環境保全地域野生動植物保護地区
砂指＝砂防指定地	鳥保特＝鳥獣保護区特別保護地区
定特保＝国定公園特別保護地区	史跡＝史跡名勝天然記念物

2 ()書きは官行造林地で契約者等名称は以下のとおり。

(大)：大和町宮床財産区	(牡)：牡鹿町 [現：石巻市]
(小)：小野田町 [現：加美町]	(鳴)：鳴子町 [現：大崎市]
(石)：石巻市	(歌)：歌津町

別紙 1 保安林の指定施業要件

事 項	基 準
<p>1 伐採の方法</p>	<p>1 主伐に係るもの</p> <p>(1) 水源のかん養又は風害、干害若しくは霧害の防備をその指定の目的とする保安林にあつては、原則として、伐採種の指定をしない。</p> <p>(2) 土砂の流出の防備、土砂の崩壊の防備、飛砂の防備、水害、潮害若しくは雪害の防備、魚つき、航行の目標の保存、公衆の保健又は名所若しくは旧跡の風致の保存をその指定の目的とする保安林にあつては原則として、択伐による。</p> <p>(3) なだれ若しくは落石の危険の防止若しくは火災の防備をその指定の目的とする保安林又は保安施設地区内の森林にあつては、原則として伐採を禁止する。</p> <p>(4) 伐採の禁止を受けない森林につき伐採をすることができる立木は、原則として、標準伐期齢以上のものとする。</p> <p>2 間伐に係るもの</p> <p>(1) 主伐に係る伐採の禁止を受けない森林にあつては、伐採をすることができる箇所は、原則として、農林水産省令で定めるところにより算出される樹冠疎密度が10分の8以上の箇所とする。</p> <p>(2) 主伐に係る伐採の禁止を受ける森林にあつては、原則として、伐採を禁止する。</p>
<p>2 伐採の限度</p>	<p>1 主伐に係るもの</p> <p>(1) 同一の単位とされる保安林等において伐採年度ごとに皆伐による伐採をすることができる面積の合計は、原則として、当該同一の単位とされる保安林等のうちこれに係る伐採の方法として択伐が指定されている森林及び主伐に係る伐採の禁止を受けている森林以外のものの面積の合計に相当する数を、農林水産省令で定めるところにより、当該指定の目的を達成するため相当と認められる樹種につき当該指定施業要件を定める者が標準伐期齢を基準として定める伐期齢に相当する数で除して得た数に相当する面積を超えないものとする。</p> <p>(2) 地形、気象、土壌等の状況により特に保安機能の維持又は強化を図る必要がある森林については、伐採年度ごとに皆伐による伐採をすることができる1箇所当たりの面積の限度は、農林水産省令で定めるところによりその保安機能の維持又は強化を図る必要の程度に応じ当該指定施業要件を定める者が指定する面積とする。</p> <p>(3) 風害又は霧害の防備をその指定の目的とする保安林における皆伐による伐採は、原則として、その保安林のうちその立木の全部又は相当部分がおおむね標準伐期齢以上である部分が幅20メートル以上にわたり帯状に残存することとなるようにするものとする。</p>

事 項	基 準
2 伐採の限度	<p>(4) 伐採年度ごとに択伐による伐採をすることができる立木の材積は、原則として、当該年度の初日におけるその森林の立木の材積に相当する数に農林水産省令で定めるところにより算出される択伐率を乗じて得た数に相当する材積を超えないものとする。</p> <p>2 間伐に係るもの 伐採年度ごとに伐採をすることができる立木の材積は、原則として、当該伐採年度の初日におけるその森林の立木の材積の10分の3.5を超えず、かつ、その伐採によりその森林に係る第1号2(1)の樹冠疎密度が10分の8を下ったとしても当該伐採年度の翌伐採年度の初日から起算しておおむね5年後においてその森林の当該樹冠疎密度が10分の8以上に回復することが確実にであると認められる範囲内の材積を超えないものとする。</p>
3 植栽	<p>1 方法に係るもの 満1年以上の苗を、おおむね、1ヘクタール当たり伐採跡地につき的確な更新を図るために必要なものとして農林水産省令で定める植栽本数以上の割合で均等に分布するように植栽するものとする。</p> <p>2 期間に係るもの 伐採が終了した日を含む伐採年度の翌伐採年度の初日から起算して2年以内に植栽するものとする。</p> <p>3 樹種に係るもの 保安機能の維持又は強化を図り、かつ、経済的利用に資することができる樹種として指定施業要件を定める者が指定する樹種を植栽するものとする。</p>

別紙 2 自然公園における施業の方法

区 分	施 業 の 方 法
特 別 保護地区	森林の施業に関する制限について、環境大臣はそれぞれの地区につき農林水産大臣と協議して定めるものとする。
第 1 種 特別地域	<p>1 禁伐とする。ただし、風致維持に支障のない場合に限り単木択伐法を行うことができる。</p> <p>2 単木択伐法は、次の規定により行う。 (1) 伐期齢は、標準伐期齢に見合う年齢に10年以上を加えて決定する。 (2) 択伐率は、現在蓄積の10%以内とする。</p>
第 2 種 特別地域	<p>1 択伐法によるものとする。ただし、風致の維持に支障のない限り、皆伐法によることができる。</p> <p>2 公園計画に基づく車道、歩道、集団施設地区及び単独施設の周辺（造林地、要改良林分、薪炭林を除く）は、原則として単木択伐法によるものとする。</p> <p>3 伐期齢は標準伐期齢に見合う年齢以上とする。</p> <p>4 択伐率は用材林においては、現在蓄積の30%以内とし、薪炭林においては、60%以内とする。</p> <p>5 伐採及び更新に際し、特に風致上必要と認める場合は、環境省自然環境局長及び県知事は、伐区、樹種、林型の変更を要望することができる。</p> <p>6 特に指定した風致樹については、保育及び保護につとめること。</p> <p>7 皆伐法による場合その伐区は次のとおりとする。 (1) 1伐区の面積は2ヘクタール以内とする。ただし、疎密度3より多く保残木を残す場合又は車道、歩道、集団施設地区、単独施設等の主要公園利用地点から望見されない場合は、伐区面積を増大することができる。 (2) 伐区は更新後5年以上経過しなければ連続して設定することはできない。この場合においても、伐区はつとめて分散させなければならない。</p>
第 3 種 特別地域	全般的な風致の維持を考慮して施業を実施し、特に施業の制限を受けないものとする。

別紙3 砂防指定地等の施業方法

区 分	施 業 の 方 法
砂防指定地	県条例で定めるところによる。
自然環境保全地域 特別地区	「自然環境保全地域の特別地区内における木竹の伐採の方法及びその限度」に関する覚書について（昭和49年10月9日49林野計第405号）による。
県自然環境保全地域 特別地区 及び 野生動植物保護地区	「宮城県自然環境保全条例」（昭和47年7月15日宮城県条例第25号）で定めるところによる
鳥獣保護区 特別保護地区	「鳥獣保護区内の森林施業について」（昭和39年1月17日38林野計第1043号）による。
史跡名勝天然記念物	指定の目的に応じた施業を行う。

計 画 事 項 の 別 表

別表 公益的機能別施業森林の区域及び施業方法

1 水源の涵養の機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

単位 面積：ha

市町村	森林の所在 (林班)	面積	施業方法
総数		69,980.51	
石巻市	計	7,947.40	伐期の延長 長伐期施業 複層林施業 (択伐) (択伐以外)
	502～512, 514～532, 538～544, 550～597, 649		
気仙沼市	計	4,156.91	
	301～308, 310～324, 326～340, 343～347, 348～355		
登米市	計	2,653.95	
	621～648, 650, 652, 653		
栗原市	計	14,160.07	
	1～13, 15, 16, 19～22, 24～46, 53～60		
東松島市	計	165.21	
	546, 548, 549		
大崎市	計	18,702.78	
	101～156, 159～162		
大和町	計	3,494.97	
	258, 260～266, 268～275		
色麻町	計	1,593.74	
	253～257		
女川町	計	233.13	
	534～537		
加美町	計	15,212.26	
	201～252, 277～282, 285～289		
南三陸町	計	1,714.09	
	360～369, 371～381		

注 森林の所在の詳細（林小班）については、東北森林管理局計画課に備え置く別冊で表示する。

2 土地に関する災害の防止機能、土壌の保全の機能、快適な環境の形成の機能又は保健機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林

① 森林の有する土地に関する災害の防止機能、土壌の保全機能の維持増進を図る森林

単位 面積：ha

市町村	森林の所在 (林班)	面積	施業方法
総数		13,745.68	
石巻市	計	1,828.60	伐期の延長 長伐期施業 複層林施業 (択伐) (択伐以外)
	502～509, 515～519, 525, 528, 530, 539, 543, 550, 551, 553, 554, 557～560, 562～564, 566～569, 572, 575～578, 580～583, 586～596, 649		
気仙沼市	計	872.15	
	302, 303, 305, 306, 307, 312～316, 318, 320, 323, 324, 326, 329～332, 337		
登米市	計	27.21	
	637, 641, 645, 647		
東松島市	計	53.87	
	548		
栗原市	計	3,550.61	
	2～13, 15, 16, 19, 20, 21, 24, 26, 28, 29, 31～38, 40～44, 46, 53～60		
大崎市	計	5,453.97	
	101～111, 114, 117～119, 121～124, 127, 131, 133～140, 142, 145, 146, 149～151, 154～156, 159, 161, 162		
大和町	計	0.82	
	272		
色麻町	計	174.15	
	253, 254, 256		
加美町	計	1,765.59	
	201～210, 223, 224, 228, 237, 238, 241～244, 247, 249, 277, 279～282		
女川町	計	14.63	
	535		
南三陸町	計	4.18	
	362, 365, 373		

注 森林の所在の詳細（林小班）については、東北森林管理局計画課に備え置く別冊で表示する。

② 快適な環境の形成の機能の維持増進を図る森林

単位 面積：ha

市町村	森林の所在（林班）	面積	施業方法
総数		53.87	
東松島市	計	53.87	伐期の延長
	548		長伐期施業 複層林施業 (択伐) (択伐以外)

注 森林の所在の詳細（林小班）については、東北森林管理局計画課に備え置く別冊で表示する。

③ 保健機能の維持増進を図る森林

単位 面積：ha

市町村	森林の所在 (林班)	面積	施業方法
総数		24,014.94	
石巻市	計	1,681.05	伐期の延長 長伐期施業 複層林施業 (択伐) (択伐以外)
	502～512, 518～522, 524, 526, 528～532, 541～544, 557, 565, 570, 571, 574, 591		
気仙沼市	計	19.56	
	331, 346, 353		
登米市	計	94.43	
	635, 650, 652		
栗原市	計	5,498.48	
	4, 5, 8～12, 15, 19～22, 24, 31, 33, 38, 39, 40, 42～46, 56, 58～60		
東松島市	計	111.34	
	546, 549		
大崎市	計	8,079.76	
	101～105, 107～110, 112, 113, 119, 120, 122～126, 128～137, 139～149, 151～154, 159		
大和町	計	2,327.53	
	258, 260～266, 268, 269, 273, 274		
色麻町	計	716.20	
	255, 257		
加美町	計	5,324.03	
	214, 220～222, 226, 229, 230, 232～234, 236, 239, 240, 245～252		
女川町	計	111.69	
	536, 537		
南三陸町	計	50.87	
	360～362, 366, 371, 373, 375		

注 森林の所在の詳細(林小班)については、東北森林管理局計画課に備え置く別冊で表示する。